

べつかい 議会だより

第84号

2018年2月

厳しい寒風のなか献上鮭となる秋味が干されていく

議会報告会 3会場で開催される	2
第4回 定例会が開催される	6
平成28年度決算を認定する べつかい柏の実会に対する支援について 傍聴者インタビュー	
町政のここが聞きたい	11
一般質問（中村、森本、木嶋、外山、瀧川の5議員）	

シリーズ まちの宝物 世代をつなぎ別海の海に生きる	22
---------------------------------	----



北海道別海町議会

平成29年度 議会報告会を開催

11月16日（西公民館）

11月17日（交流館ぷらと、尾岱沼きらくる）

議会や町政に対する町民の意見や提言を広く聴く場として議会報告会を開催しています。各会場で出された意見などを分会ごとに要約して掲載します。



冒頭に各委員会からの全体報告が行われている（西部地区会場）

今回の新たな取り組みとして、全体報告の後に意見交換の時間を設ける形で議会報告会を開催しました。

全体の出席者としては若干少なめではありましたが、三会場ともに分会形式の意見交換を進行することができました。

初めての試みなので不安もありましたが、幸いご好評いただき、ひとりでも多くの意見・提言を聴くという当初の目的は一定程度達成できたと感じています。

これらの意見・提言については、今後各委員会はもちろん議会全体としても議論を深め、活発な議会活動につなげて行きたいと思っています。

また、結果の広報だけでなく、議論の経緯などについても積極的に報告してほしいとの声もあり、今後の広報・広聴の取り組みに反映して行きたいと考えています。

今後は議会報告会のよりいっそうの工夫に加えて、意見交換会の実施に向けた働きかけなど、より広聴活動に積極的に取り組んでいく必要があると感じています。

参加人数

西部地区	
15名	
東部地区	
13名	
中央地区	
14名	
合 計	
42名	

総務文教分会の報告

総務文教分会は座談会形式で分会を進行しましたので、質疑応答形式ではなく出された意見を文章形式でまとめさせていただきます。

■魅力ある別海高校づくりについて

別海高校の魅力をより高める取り組みは、今後、安定した入学希望者の数を確保するうえでも欠かすことができない。

この取り組みは、高校側だけに頼るのではなく、地域の特色を活かすため行政やJAとも連携して、魅力づくりに取り組む必要があるのではないかと。

また、各地域の小中学校のコミュニティスクールで取り組まれている活動を共有するなど、地域と一体となった魅力づくりが必要ではないかと。

単に間口の維持ができればいいという短期的な対策ではなく、当町の将来を見据えた長期的な計画が求められている。

■高校の寄宿舎について

保護者が安心して子どもを預けられる施設とすることがとても大切になる。

入居者の生活面を含めた適切な管理および指導を行う必要性があるため、管理者に対して、事前に研修を受けさせるべき。

また、学校を含めたサポート体制が必要である。

現在の計画では男女共用の施設となっているが、保護者としては不安に感じる部分もあるため、十分な対策を講じる必要がある。

■給食センターについて

当町の特色を活かした給食を提供できるようにできないかと。別海高校の生徒に對しての給食の提供について検討が必要である。

■生涯学習センターについて

ぶらと、マルチメディア館、(仮称)生涯学習センターが連携して役割を果たしていく計画となっているが、ひとつの事業で目的を達成するものではないので、長期的なビジョンを明確に持ち、段階的に機能を補完していく必要がある。

建物の設計などの検討も大切だが、それら施設を町民がどのように活用していくのかについての具体的な検討や準備も進めていくべき。

■防災対策について

近年、台風が高潮と重なり大きな被害を受けることが多い。北海道開発局も対策に乗り出しているがまだ計画段階である。計画を可能な限り早めるよう働きかけてほしい。

また、災害の影響を受けにくい安全な土地を分譲するなど、町として独自の対策も考えてほしい。



座談会形式で和やかに進行された分会

福祉医療分会の報告

質問 高齢者の健康づくりに「生き生き100歳体操」があり、効果が確認されている。地域包括センターで実施しているが、普及させることが大切だと思う。

回答 積極的に町民の皆さんにアピールする事を町に働きかけたい。

質問 当町でも近年、免許返納をする人が増えてきており、土曜・祝日など町営の生活バスが運休する状況を考えると、新しい交通機関の整備が必要となるのでは。

回答 現在、デマンド交通（乗り合いタクシー・バスなど）はどうあるべきか町でも検討されている。委員会としても有効な形での実現に向けて協議を行う。

質問 高齢者が「電球を付け替える・高い所に登る」などのチョットしたお助け仕事を、頼みやすい金額で実施する業者が出てきてほしい。

また、行政としてそのような事業を支援する体制も整備してほしい。

回答 組織・窓口は、現在も町にあるが、今後委員会としても提案していく。

質問 通所型の介護施設を東部地区にも早く作ってほしい。

回答 現在、福祉部で検討をしているが、運営主体をどうするかなど、地域の各団体とも協力しながら進めていくようだ。

質問 医師の高齢化も進んでいくなか、将来にわたる長期的な医師の確保について考えてほしい。

また、診察の際にできるだけ丁寧な対



ワークショップ形式の分会を行い、さまざまな意見が出された

応と詳細な説明をしてほしい。

回答 医師確保は大変難しいことだが、今後委員会としても努力していく。対応と説明については病院に伝える。

質問 町営プールが9月から営業を停止しており、サークル活動に支障が出ている。

回答 壊れたボイラーの修理のため、今シーズンは使えないと聞いている。今後のスケジュールについて、町民の皆さんに周知をするよう所管に伝える。

質問 特別養護老人ホームの待機者数は。

回答 現在、待機者は町外の方も含めて90名程度となっている。

質問 広域のごみ処理に関して、ごみの仕分けを4町で統一してはどうか。町村ごとに仕分けルールが異なり、収集の状況もさまざまとなっていることが、ごみ処理施設の故障など大きな負担になっている。

回答 重要な指摘をお聞きしたので、今後、委員会でも検討し、また町とも対応を協議して行きたい。

産業建設分会の報告

■環境問題について

質問 町内の不動産が町外、特に外国の人に取得されていないか。町内で木の伐採が進んでおり、酪農や水産に影響がおよぶ心配がある。条例により対策を講じられないか。

回答 少なくとも農地は農業委員会で管理されている。河川の流域などの木も伐採されてきているが、河川の植樹も進めている。

町でも植樹を積極的に実施し、対策に努めているが、私有地の対応は難しい現状となっている。

質問 畜産環境条例について発言し、情報公開も求めてきた。作業部会で河川の水質検査については何も議論していない。

回答 河川の水質検査は継続して行われている。今後も検証が必要と考える。

■道の駅の除雪について

質問 道の駅の除雪ができていない状況がある。観光客の生命にかかわる場合

もある。

回答 昨年、建設部への確認では実施しているとのことだった。再度確認を行う。

■ふるさと交流館（郊楽苑）について

質問 ふるさと交流館（郊楽苑）には多くの予算が支出されている。必要なか、構想を示してほしい。

回答 継続への賛否は地域によって温度差もあり、経費のかからない方法などを話し合っている。基本的には最低限度の費用をかけ施設を残す方向となっている。

■酪農について

質問 除草剤「ラウンドアップ」の安全性に不安を感じている。ヨーロッパでは使用中止の動きもある。リスクがあるのでは。

回答 現時点ではJAがこの農薬を推進しており、安全性についてこの場で安易に回答することはできない。JAや関係機関の判断を確認していく。

質問 家族経営の小さな酪農家をしっかりと守ってほしい。

回答 大型経営に向けた補助金が多く支出されているが、家族経営が基本だと考えている。

■バイオガス発電施設について

質問 バイオガス発電施設の稼働状況はどうか。

回答 固い糞尿は、詰まってしまうことが問題となっている。現在は計画処理量の70%程度を処理できるようになっている。

消化液については酪農家で受け入れできない状況が問題となっており、対応について検証していく必要がある。



幅広い年代の参加者が基幹産業について意見を出し合った

第4回定例会開催される

一般会計補正予算2億570万円を承認

各会計補正予算、条例の一部改正、財産の取得、指定管理者の指定、教育委員会委員の任命、決算審査特別委員会の審査報告などが行われました。

第4回定例会は、12月12日～15日の4日間の会期で開かれました。

冒頭の行政報告のなかで、別海病院小児科医師の退職にともなう経過報告があり、退職という事態を受け、町としての対応と今後の方向性が示されました。

現在、常勤の小児科医が不在であるた

め、別海病院での分娩受け入れができない状態であり、早急に常勤医師確保を目指すとの説明がありました。

本議会では、町長からの提出案件である、一般会計補正予算2億570万円を承認しました。

その中で、特に平成26年に町から経営

移譲された老人ホームなどを運営する柏の実会に対する運営補助金5200万円に対する議員の質疑が相次ぎました。

各条例の一部改正では、今後予想される看護師や介護職員不足に対応するため奨学資金支給条例の改正や、現行の中小企業融資条例を平成35年まで延長するなどの改正を行いました。

また、人事院勧告により町の特別職・教育長に関する給与及び旅費、町職員の給与、議員報酬額および費用弁償に関する一部改正をしました。

さらに町内をまわる、生活バスの一部老朽化にともない買い替えなどの承認がされました。

他に、平成30年3月31日で協定期間が終了する、公の施設に係わる指定管理者の指定（別海町マルチメディア館・別海町地域情報通信施設・別海町営畜牛育成牧場・別海町資源循環センター・別海町ふるさと交流館など）に関し、提案通り可決されました。

別海町教育委員会委員の任命では、木村江里さんが再任されました。

決算審査特別委員会から平成28年度別海町各会計決算審査特別委員会付託事件審査結果認定報告がされました。

平成29年度 第3回補正予算概要

	補正額	予算総額
一般会計	2億570万円	174億8920万円
介護保険特別会計△510万円		4億8170万円

支出の部（主な補正）

議会費	42万円増額
電子計算管理費	140万円増額
老人福祉費	4,770万円増額
児童福祉総務費	8,409万円増額
公営住宅建設事業費	1億2,092万円増額
学校管理費（小学校）	382万円増額
学校管理費（中学校）	813万円増額
学校給食費	182万円増額
道路維持費	8,749万円増額
北方領土問題対策費	59万円減額
農業振興費	2,404万円減額
水産業振興費	7,472万円減額
消防費	399万円減額
幼稚園管理費	379万円減額
社会教育総務費	385万円減額

へいせい ねんど
平成28年度

かく かい けい けつ さん しん さ
各会計決算を審査・認定する

いっ ばん かい けい せん まん えん くら じ けつ さん
一般会計で6千574万円の黒字決算

第4回定例会では、決算審査特別委員会（沓澤昌廣委員長）の報告を受け、討論採決の結果、すべての会計の決算について全会一致で認定しました。

一般会計については、歳入歳出で実質収支額で6千574万円の黒字決算となっており、財政健全化判断比率も基準を下回っています。

今後も引き続き予算全般に歳出の抑制を行い、健全な財政運営を目指すべきです。

地方財政を取り巻く環境は、人口減少や少子高齢化などの社会的要因で依然として厳しい状況にあります。

今後も国や道支出金のさらなる積極的な導入や各種基金の計画的な運用により、財源確保に努められることを期待します。

特に町税および税外の収入未済額、また、滞納繰越額に対する収納環境、処分方法について、ますます困難になることは否めないため、円滑な財政運営に支障をきたす可能性が高くなります。

平成28年度 各会計決算 （数字は千円以下切り捨て）

	歳 入(収入)	歳 出(支出)
一 般 会 計※1	187億3042万円	186億5891万円
国民健康保険特別会計	30億4167万円	28億8495万円
下水道事業特別会計	6億5766万円	6億5756万円
介護サービス事業特別会計	4億7467万円	4億7440万円
介護保険特別会計	10億3076万円	9億7883万円
後期高齢者医療特別会計	1億4909万円	1億4820万円
町立別海病院事業会計※2	20億6152万円	21億7663万円
水道事業会計※2	10億7584万円	8億3998万円

※1 翌年度に繰り越すべき財源として576万円を差し引き黒字額となる。

※2 収益的収支のみ掲載しています。

町民の納付意識の向上をはかり、公正で公平な税負担を求めるため、今後も自主納付の推進や、個々の生活状況に配慮したきめ細やかな対応などにより、いっそうの収納対応策の強化を行い、収納率の向上に努める必要があります。

また、これまで行ってきた事業の検証や分析を行い、行政サービスの向上や少子高齢化社会への迅速な対応および、危機管理能力の向上などの諸問題に対し、新たな発想による取り組みも必要となります。

今後においても独自の着眼による、別海ならではの事業を効果的に展開することを期待します。

自主自立の行政運営を実行し、自治基本条例にもとづき、あらゆる行政情報を町民と共有することが必要です。

町民のニーズに対応した行政サービスの提供に努め、第6次総合計画の総仕上げに向けた着実な実践と、町民とともに歩む協働のまちづくりのさらなる推進のため、効率的な予算執行に取り組むことを期待します。

社会福祉法人べつかい 柏の実会に対する 支援について

平成26年4月に町から柏の実会に経営移譲された特別養護老人ホームおよびデイサービスセンターですが、運営に関しては法人全体で自立運営を図るとされてきました。

しかし、介護保険制度の改正や維持管理経費のコスト高などの原因により、当初2億円程度あった内部留保資金も底をつく状況となりました。

町側から赤字になった要因が以下のとおり説明されました。

○平成27年度介護保険制度改正（3年ごとに見直し）による介護報酬減額算定が移譲時では予測し得ない大きさであった。

○多床室から個室ユニット型に運営形態が移行したことによる介護職員不足を見越した採用や、胃ろう、経鼻経管栄養者などの重度介護者への対応から看護職員などの削減に踏み切れなかった。

○給食委託費が地域的な事情から、受託参入業者が1社のみであり、競争性に

乏しいことや人員確保に伴う賃金の伸びなどにより委託費が高騰している現状である。また、保守点検委託費も同様の状態である。

町としては、現在の特老は、入所定員90名のところ常に満床状態で、その入所者の多くは別海町民です。

入所者にとって「終の棲家」としての重要な施設を無くすことはできないと考え、特老の施設の継続を図るためには支援が必要と判断しました。

しかし、他の民間事業者に対しての平等性を欠くことから、赤字の全額補填はすべきでは無いとの考え方に立ち、平成29年10月に柏の実会が依頼した経営コンサルティングの分析結果をもとに一部を支援することとしました。

移譲の際に予測出来なかった介護報酬減額算定分の5200万円が支援の対象となります。

議会では多くの議員から、柏の実会のこれまでの経営に対する疑問点と、今後の運営に対する不安な点などの質問がありました。

また、現在にいたるまで有効な自主的経営対策を取れなかったことに対する経営責任についての質問も出されました。

今後は支援を受けた法人が、適切に経営改善を行えているのかを適宜確認し、業務体制の改革など赤字要因の見直しについて、町も指導や助言をして行く方針とのことです。



べつかい柏の実会が運営する特別養護老人ホーム「清翠園」

別海町教育委員会委員の任命に同意

任期満了に伴い、木村江里さん（別海宮舞町）の推薦を承認（再任）しました。

任期は平成29

年12月22日から
平成33年12月21
日までの4年間
となります。



木村 江里 さん

指定管理者の指定

◆指定管理者の期間満了に伴い指定管理者の指定をしました。

○別海町マルチメディア館

株式会社 オーレンス

○別海町地域情報通信施設

株式会社 オーレンス

○別海町営畜牛育成牧場

有限会社 別海町酪農研修牧場

○別海町資源循環センター

別海バイオ株式会社

○別海町ふるさと交流館

株式会社 郊楽苑

いずれも平成30年4月1日から平成33年3月31日までの3年間となります。

条例の制定および改正

◆別海町奨学資金支給条例の一部を改正
町民の保健福祉医療の向上に資するため、奨学資金支給の対象に、これまでの准看護師に加えて介護福祉士も追加となりました。なお、農水産技術者については、これまでほぼ支給事例がないことから対象から削除されました。

◆別海町議員報酬、特別職給与、教育長給与、別海町職員給与などに関する条例を改正
人事院勧告に基づいて報酬や給与の内容を改正するものです。

◆別海町中小企業融資条例の一部を改正
これまで融資の際に必須だった北海道信用保証協会の保証を、金融機関が認めた場合は不要とできるものです。これに伴い、担保や保証人についても金融機関が必要性を判断します。

意見書

◆適正な地方町政計画の策定を求める意見書
（全会一致で可決）

提出者 総務文教常任委員長 小林 敏之 議員
地方財政は、地方交付税大幅削減による自治体財政危機、経済環境の変動により大変厳しい状況に置かれています。しかし、災害復旧・復興、住民福祉の向上など、欠かすことのできない事業に対応できるよう、自治体は不断の努力により基金を積み立てています。

この基金の残額が増加しているからといって、これを地方財政計画に反映することは地方の疲弊につながるため反対します。

◆北海道の酪農・畜産の安定経営に関する意見書
（全会一致で可決）

提出者 産業建設常任委員長 沓澤 昌廣 議員
北海道の酪農畜産は、安全で良質な牛乳・乳製品を国民に対し安定的に供給するという、重要な役割を担っています。地域経済社会を支える酪農畜産の持続的な発展を図るためにも、生産現場に寄りそった酪農・畜産政策の推進と必要な予算措置に努められることを強く要望します。

議会傍聴インタビュー

一般質問の傍聴に訪れた方にお話を伺いました。
【お話を伺った方々】西春別駅前連町女性部の皆さん



広報…傍聴された感想は？
(皆さん今回が初めての傍聴です)

松浦…連合町内会の役職につき、議会の傍聴を呼びかけたところ参加したい人が多くいました。議員の意見をたくさん聞いて投票しなくてはならない、と思いました。



安田鏡子さん



武田若子さん



松浦妙子さん

武田…わからない事もたくさんありましたが、今回参加して、病院のことなど興味を持って聞くことができとても良かったです。若い人の意見を取り入れ、お金の使い方を考えていく必要があると思いました。

安田…議会がどんな風に運営されているのか少しわかりました。また傍聴したいです。同じ人の質問が多いように感じます。たくさんの議員から質問があればと思います。議会だよりは興味をもって毎回読んでいます。

広報…これまで定例会の全てをお知らせする事にしていましたが、今はできるだけ定例会で、何を一番注目し知ってもらいたいかを特集でわかりやすくまとめる工夫をしているところです。

第4回定例会（12月12日～15日）

議案番号	件名
議案第77号	平成29年度別海町一般会計補正予算（第4号）
議案第78号	平成29年度別海町下水道事業特別会計補正予算（第2号）
議案第79号	平成29年度別海町介護サービス事業特別会計補正予算（第1号）
議案第80号	平成29年度町立別海病院事業会計補正予算（第1号）
議案第81号	平成29年度別海町水道事業会計補正予算（第1号）
議案第82号	別海町奨学資金支給条例の一部を改正する条例の制定について
議案第83号	別海町議会議員の議員報酬額及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第84号	特別職の職員で常勤のものの給与及び旅費に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第85号	教育長の給与及び旅費並びに勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第86号	別海町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第87号	別海町中小企業融資条例の一部を改正する条例の制定について
議案第88号	財産の取得について（生活バス）

議案番号	件名
議案第89号	公の施設に係る指定管理者の指定について（別海町マルチメディア館）
議案第90号	公の施設に係る指定管理者の指定について（別海町地域情報通信施設）
議案第91号	公の施設に係る指定管理者の指定について（別海町営畜牛育成牧場）
議案第92号	公の施設に係る指定管理者の指定について（別海町資源循環センター）
議案第93号	公の施設に係る指定管理者の指定について（別海町ふるさと交流館）
承認第1号	専決処分した事件の承認について（一般会計補正予算第3号）
同意第30号	別海町教育委員会委員の任命について
報告第6号	専決処分の報告について（和解及び損害賠償額の決定について）
報告第7号	専決処分の報告について（町道根室中部3号幹線交付金工事（改良））
報告第8号	専決処分の報告について（（H28線）西和地区農道改良舗装工事）
報告第9号	専決処分の報告について（根室中部3号主要幹線改良舗装工事）
報告第10号	専決処分の報告について（中西別上風連線改良舗装工事）
報告第11号	専決処分の報告について（旧奥行臼駅通所主屋保存修理工事）
報告第12号	専決処分の報告について（（H28線）東富岡地区農道改良工事）

以上、全会一致で可決しました。

第4回定例会 一般質問

町政のここが聞きたい

第4回定例会では2日目（12月13日）に5議員が一般質問をしました。各議員の質問項目とその内容を要約して掲載します。（全文は町のホームページに掲載）

■ 中村 忠士 議員……………12

- 1 別海バイオガス発電会社、2年連続赤字の原因は
- 2 学校公務補の正職員化について
- 3 異常気象から基幹産業を守る特別施策を

■ 森本 一夫 議員……………13

- 1 MRI診断装置の導入と医師の確保は
- 2 ふるさと交流館（郊楽苑）について

■ 木嶋 悦寛 議員……………14

- 1 長時間労働の是正には教員増しかないのでは
- 2 子どもの遊び場確保は
- 3 野付半島を守るために

■ 外山 浩司 議員……………15

- 1 合葬式墓地の制度化にむけた町の考えは

■ 瀧川 榮子 議員……………16

- 1 国民健康保険制度広域化になっても法定外繰り入れは継続されるか

詳しい議事録は町のホームページに掲載します。

別海町議会

検索

一般質問とは、行政全般について議題とは関係なく議員主導で政策論議できる仕組み。質問内容は事前に通告する必要があり、定例会でのみ行える。持ち時間は一人60分となっている。



中村忠士議員

別海バイオガス発電会社、 2年連続赤字の原因は

登藤産業振興部長
原料受け入れが6割、
売電量の減少が要因

質問 当町は、別海バイオガス発電株式会社に6450万円出資し、株主となっている。経営の状況などの情報を町民に開示する必要があると思うが。

登藤産業振興部長 情報公開制度にもとづき、請求のあったものに関して可能な限り開示する。

質問 発電会社が本格操業を開始した平成27年度の営業利益は1億6百万円の赤字、28年度は1億4千万円の赤字となっている。操業前の計画では27年度は1億3千万円、28年度は1億4千万円の黒字になるはずだった。2年間で5億円以上の違いが出た。それはなぜか。

量に問題があり売電が伸びなかったことが要因と考えられる。

質問 28年度に町は堆肥運搬車購入に関わる補助金2千2百万円を支出している。こうした事態がまた起こらないか危惧する。

登藤産業振興部長 29年度に貯留槽設置の用地を町が取得し、発電会社に貸付けることとしているが、それ以外に町費を投入する考えはない。

学校公務補の正職員化について

質問 町内小中学校の公務補は、正職が33%、嘱託・臨時が67%だ。町の保育士の正職は65%、幼稚園教諭の正職は63%で、これに比べ、学校公務補正職の割合は不均衡が目立つ。

山田教育部次長 「同一労働・同一賃金」の原則的考えは理解できる。現時点では正職員比率を高める計画はないが、学校の円滑な運営のため、学校公務補の業務のあり方とともに検討していく。

異常気象から基幹産業を守る特別施策を

質問 28年は3つの台風が立て続けに来て大きな被害が出た。今年29年も台風18号が広範囲に被害をもたらした。被害からの復興を支援するための基金の創設は考えていないか。

佐藤副町長 災害が増えることが想定される。基金設置などについて今後検討、研究していく。



平成28年の台風被害で沼のようになってしまった牧草地



森本一夫議員

MRI診断装置の導入と 医師の確保は

大槻病院事務長

導入に向けた検討をする
医師の募集活動に力を入れている

質問

外科および整形外科は手術の際など、他町のMRI診断装置により診断を実施している。

他町での診断となると、高齢者や障がい者など交通弱者の方に大きな負担となってしまう。さらに、MRI診断装置があれば疾病の早期発見、早期治療などが可能と考えるが。

大槻病院事務長

町民へのきめ細かい医療提供のため必要と考えるが多額の設備投資が必要となるので、費用対効果の検証と院内の合意形成が不可欠である。今後導入に向けて検討したい。

質問

11月30日の新聞に小児科医師の退職の記事があったが、小児科医師の常駐がなければ新生児の出産もできない。出産ができない状況は、町が掲げる重点目標の「子ども子育て」にも大変大きな影響を与える。

退職にいたる経緯と、その際、慰留などの対応はどうだったのか。

大槻病院事務長

10月30日の運営委員会で小児科医師より12月末日で退職する旨の文書が提出された。

院長中心に内部で状況確認および慰留を含む数回の協議をしたが、既に新しい勤務先が決まっており、退職の意志は固く、11月10日付で退職願いが提出され、これを受理した。



MRI装置を使用した診断風景（釧路市立病院提供）

質問

出産体制として最低でも小児科医師1名、産婦人科医師2名が必要。

町は出張医で小児科に対応するとのことだが、出産までの妊婦検診、出産、出産後のケアに不安を生じる。

後任医師の確保についての状況は。

大槻病院事務長

さまざまな医師求人支援団体などに募集活動を行っている。

北海道医療対策協議会や札幌医科大学へ状況説明と医師派遣についてお願いしている。

ふるさと交流館（郊楽苑）について

質問

ふるさと交流館（郊楽苑）に宿泊施設の増設を行い、滞在人数を確保しては。

曾根町長

今後の利用状況によっては大規模な増改築も検討する。

質問

今後も指定管理を継続していくのか。多額の費用をかけ改修をしたが、今後も費用をかけ続けていくべきなのか。

曾根町長

今後、町民のニーズとして本当に望むか全体的に把握し、2年後に方向性を出していく。



木嶋悦寛議員

長時間労働の是正には 教員増しかないのでは

教育長

有効だが実現には時間がかかる、
まずはできることから進めたい

質問 教職員の長時間労働が明らかに
なっている。勤務実態の把握や改革案は。

山田教育部次長 教職員の長時間勤務
は看過できない状況だが、当町独自の調
査は実施していない。

今後も、教職員の心の健康と子どもに
向き合う時間の確保に向け、学校と協力
し実態把握に努めたい。

改革案については、当町で抱える課題
の傾向が全国全道と同様のことから、道
教委から示されるアクションプランの内
容をもとに検討したい。

来年度、全中学校区で「別海型」コミュ
ニティスクール」を試行導入し、地域に
よる学校支援で、負担軽減につなげたい。

質問 長時間労働是正には、教員増し
かないという声もある。どう考えるか。

伊藤教育長 確かに有効だと思うが、

実現するには時間を要する。子どもと教
職員のため、まずはできることから進め
たい。

子どもの遊び場確保は

質問 「冒険遊び場、プレーパークづ
くり」のような、地域が主体となって取
り組める遊び場づくりをどう考えるか。

河嶋福祉部長 町では各児童施設で自
然体験など世代間交流の各種事業を実践
している。地域が主体的に取り組める遊
び場づくりも、協力や支援をしたい。

野付半島を守るために

質問 野付半島ネイチャーセンターで
自然系生物系の学芸員を配置してはどう
か。また、野付半島に興味を示す大学や
研究者への支援をどう考えるか。

登藤産業振興部長 学芸員の配置は考
えていない。

研究者へは専門家の意見を聞き、総合
的な観点から支援の検討をしたい。

質問 野付半島には、過去のトドワラ
イメーজの先行、竜神崎灯台から先端部
方面の可猟域の存在、個人が担ってしまっ
ている学術団体との交流業務、野付学の
継承など、数多くの課題がある。

野付半島を支えるために、これら課題
の解決やその仕組みづくりに町はもっと
積極的にかかわる必要がある。

登藤産業振興部長 関係機関との協議
が必要だ。多様化する観光ニーズへの考
察や保全、活用方法について検討したい。



野付半島を守り生かすため多角的な認識と
取り組みが必要だ



外山浩司議員

合葬式墓地の 制度化にむけた町の考えは

町長

十分検討し、第7次総合計画の中で
早期に建立できるように考えている

質問 3霊園の管理状況は、どのよう
になっているか。

河嶋福祉部長

4月から10月までの間、
管理人が常駐し、芝や樹木の管理、春先
の除雪や清掃、墓地建設や撤去の立ち会
い、見回りなどの管理業務を行っている。
他の24力所の墓地には、管理人を置き、
施設の保全、清掃美化のほか、立ち会い
や見回りなどにより、長期間放置されて
いるお墓がないか確認をしている。

質問

当町において、合葬式墓地は必
要な制度と考えるが、町長の考えは。

曾根町長

家族、親族によるお墓の継
承や管理に不安がある方が増えているこ
とや、経済的な事情から個人の墓を持つ
てない方、家族の負担を考えてお墓を建
てない方がいることも理解している。
背景には、現在の少子高齢化や核家族



中春別墓地委員会は、地域の要望に応え、単独で合葬墓を建立し15体を納骨
(平成29年11月中春別墓地)

化など、家族のあり方が変化しているこ
とが大きな要因だろうと考えている。
このため、継承者の有無に関係なく、
また、生前に申し込みができる合葬式墓

地が、さまざまな事情によって必要とさ
れている。新しい墓所の形態として、全
国に広まってきていることも承知してい
る。

今後、当町における合葬式の墓地のあ
り方を十分検討しながら、次期の第7次
総合計画の中で、早期に建立できるよう
に考えている。

合葬式墓地

- ・ひとつのお墓に複数の焼骨を埋葬
する合葬式のお墓。一括管理とな
るので、従来のお墓のように個々
人の継承者を必要としないのが特
徴。
- ・根室市では、平成28年11月に「市
民墓」として建立され、生前予約
52体、焼骨107体(29年9月末
現在)の状況となっている。
- ・帯広市、網走市、浜中町などでは、
「合葬墓」として条例化され運営
されている。



瀧川 榮子議員

国民健康保険制度広域化になっても 法定外繰り入れは継続されるか

副町長 継続して行う予定だ

質問 平成30年度から、都道府県が財政運営の責任主体となり、国民健康保険運営の中心的な役割を担う広域化が始まる。標準保険料の金額は示されたか。

河嶋福祉部長 確定ではないが仮算定の結果は出た。あくまでも示された金額を単純に1人当たりに割り返した金額だが、単純計算で17万円になる。

質問 現在の保険税収納率は100%ではない。全額収納に向けてどのような解決策が考えられるか。

河嶋福祉部長 平成30年度から道に納付する国保事業納付金の財源は、国、道からの交付金のほか、保険税や一般会計からの基準繰入金が主な財源となる。保険税は制度を支える柱であり、収納率向上に向けた取り組みが重要だ。

質問 払いやすい国保税にするために、現在8期ある納期を増やしたり、所得段階の細分化など、予定はあるか。

河嶋福祉部長 納期についての予定はない。細分化については今後の状況に応じてしっかりと検討していく。

質問 当町は一次産業が盛んで所得水準は高いが、医療費水準は北海道で常に最下位に近い。当町への納付金割り当ては、水準値が正確に反映されているか。

河嶋福祉部長 医療費水準は、全道で2番目に低い結果となっている。低い市町村に対して、納付金算定の影響を補う交付金が予定されており、正確に反映されていると判断している。

質問 保険事業や地方単独事業などにあてることが目的の場合、法定外繰り入

れの解消、削減の対象にはしないと国保の運営方針に書かれた。
これらの事業に係る法定外繰り入れを町は継続していくか。

佐藤副町長 国保財政運営のため必要であると判断し、継続して行う予定だ。

質問 北海道は医療過疎の地域が多く、医師も偏在し公平感はない。医師確保も自治体任せでなく、道が積極的に努力する必要があると考えるが。

佐藤副町長 道はこれまでも道外医師確保活動など各種対策を講じている。地域医療の充実や体制整備は急務であり、実効性のある対策について道、国に對し要望していく。

国民健康保険の広域化とは

現在、国民健康保険は、市町村それぞれが保険者となって運営している。平成30年4月からは北海道が責任主体となり、安定的な財政運営や効率的な事業運営の確保など、国保運営に中心的な役割を担い、制度の安定化を図るとされている。

議会のうづき

本号の巻頭にて、昨年11月に開催された議会報告会の要約を掲載しております。議会での審議の経過や結果をご説明し、町民の皆さまのご意見やご提言を直接うかがう場として重要な取り組みであると考えています。

今回は委員会ごとの分会形式を取り入れて、可能な限りたくさんの方の意見が聞けるよう工夫しました。

幸いなことに、ある一定の成果は上がったと感じていますが、年に1回の議会報告会だけでは、意見交換の場としては、機会がまだまだ不足していると認識しています。

そこで、昨年要綱を整備した議会意見交換会の実施に向けて力を入れたいと考えています。

意見交換会は、議会と町民が意見交換の場を持つ仕組みで、町民や町民団体からの申し込みで開催されます。議会全体

のことに對する意見交換も可能ですが、申し込み方たちが特に興味のある内容にテーマを絞った形での開催も可能です。意見交換会で話し合われた内容は、報告書としてまとめられ速やかに議長に提出されます。

所管委員会での議論に活用させていただきます。また、行政側での対応が必要な内容については適宜町長に報告いたします。

開催された意見交換会の内容は、概要を議会だよりの紙面に掲載させていただきます。

開催を希望される方は、申込書を提出する必要がありますので、まずは議会事務局まで問い合わせをいただければと思います。

町内会や各種業界団体や青年部、サークルやグループなど、町民の皆さまの申し込みをお待ちしております。

制度のお知らせ 別海町議会 意見交換会

お寄せいただいたご意見は、概要を議会だよりに掲載させていただきます。また、議会運営および政策立案、調査研究へと活用します。

議会や町政に関すること
その他いろいろな話題で
意見交換をしましょう！



対象

- ・町内にお住みの方
- ・町内で活動している各種団体
- ・自治会(町内会)など

申込方法

- ・申込者氏名もしくは団体名
- ・住所および連絡先
- ・意見交換したい内容
- ・開催希望日時、会場
- ・上記内容を事務局まで

問合せ＆申し込み：別海町議会事務局 ☎ 0153-75-2111

常任委員会の活動報告

総務文教常任委員会

担当所管 総務部・教育委員会など

委員長 小林 敏之
副委員長 森本 一夫
委員 西原 浩
委員 松壽 孝雄
委員 小椋 哲也

まちづくり構想の策定について

本年度は、昨年定めた基本計画をもとに実施計画を策定するべく取り組みがされています。

(仮称)生涯学習センターの建設位置が旧別海Aコープ跡地に決まり、周辺のぷらとやメディア館との連携や、施設の規模や設計などについても具体的な議論がなされています。

当委員会としては、住民から出された意見をどのように計画に反映させているのか、またその経過がどのように開示されているのかについて特に注意して検討を進めていく予定です。

給食センターの建設について

本年度から学校給食センター改築事業として動いており、本年度は基本設計および実施設計、地質調査を行い、平成30年度に改築工事、平成31年度に厨房機器



希望者が増え増築を行っている足寄高校の寄宿舎

の設置と外構工事、平成32年から運用開始を予定しています。建設地は別海市街地から中西別へ向かう途中、農村広場入り口手前の国道沿いの町有地となります。事業費は現在精査中ですが、補助事業としては学校施設環境改善交付金を活用し、改築部分は1/3、新たに増築する部分は1/2の補助率となります。提供予定食数は2000食で、小学校、中学校、幼稚園および保育園を対象としています。

**別海高等学校への支援について
(足寄町調査)**

10月30日に足寄町の地元高等学校への支援施策について視察に行きました。

足寄高校は平成2年頃まで1学年5学級体制を誇っていましたが、人口の減少と少子化の進行とともに生徒数は減少の一途をたどり、近年は2学級の維持も難しい状況に陥っていました。

足寄町は、地元高校は地域経済発展の礎であり、将来のまちづくりを進めるうえで不可欠なものであると位置づけ、徹底した支援策を打ち立てて行きました。

通学費の支援などに加えて、寄宿舎の設置と家賃の支援、入学一時金の助成、見学旅行の一時金補助、第1学年全員の海外研修派遣事業の実施、学校給食の無償提供、公設民営「足寄町学習塾」の開設と無償利用など、非常に多岐にわたっています。

平成27年度から開始した支援策により、生徒数は大幅に増えており、特に町外からの入学者の伸びが大きくなっています。

これら足寄町の取り組みは非常に参考になることが多く、今後の委員会の検討に活かしていきたいと考えています。

常任委員会の活動報告

福祉医療常任委員会

担当所管 福祉部・別海病院など

「特別養護老人ホームに対する支援要請」にかかる経過

特老施設が赤字決算となる見込みから、社会福祉法人べつかい柏の実会より支援の要請があり、町として以下の4項目にかかる資料提出を依頼しました。

- ・今後5年間の経営計画
- ・職員配置計画およびその根拠
- ・職員給与に関する資料など
- ・赤字解消計画

後日、町は支援要望にかかる資料および支援要請を受理し、さらに追加資料の提出を依頼しました。

また、経営コンサルタントによる経営状況の分析を開始しました。各提出資料も確認し、介護報酬改定影響額5千200万円の支援が必要と判断しました。

以上、所管より支援判断にいたる説明がありました。それを受け委員会では多

くの質疑が出されました。

- ・早めの経営状況の把握と対応は
- ・事業赤字の要因
- ・制度改正の影響は他民間も同様
- ・経営者の考え方と責任
- ・今後町の関わり方

などそれぞれに対して説明があり、特

委員長	戸田 憲悦
副委員長	今西 和雄
委員	中村 忠士
委員	木嶋 悦寛
委員	大内 省吾



一日も早い小児科医師の確保が望まれる

に経営努力では補えないと判断される介護報酬改定影響分に対しては支援することです。

特老施設は必要不可欠で、今後も安定した経営が望まれます。もちろん、事業主体が民間といえども公共性が高いことから、町のもう一步踏み込んだ対応も必要であると思われます。

委員会として今後も継続調査をしていきます。

町立別海病院から小児科医師退職について報告

事務長より、小児科木田医師から11月10日付で退職願を受理し、12月31日をもって退職することの報告がありました。今後の医師の確保に向けた取り組みについて、病院内部の受け入れ態勢などについて質疑がなされました。

国民健康保険法改正、本算定の結果

当町の道納付金は12億円、保険税収納必要額10億3千万円と算定、保険者数6406人、一人当たり17万円(単純計算)、30年3月または6月に29年度所得確定により条例改正する予定です。

産業建設常任委員会

担当所管 産業振興部・建設水道部など

委員長 沓澤 昌廣
副委員長 渡邊 政吉
委員 佐藤 初雄
委員 瀧川 榮子
委員 外山 浩司

林業の担い手対策について

11月7日に別海町森林組合のオガ粉加工施設などを調査しました。

森林業の問題点として高齢化にともなう就労者の減少が深刻化しており、林業技術を次世代へ伝承することもままならない状態になっています。特に若い世代の担い手が不足している現状です。

森林組合では、担い手確保と労働環境改善の方策として作業の機械化に取り組み、今回、3種類の機械作業を見学しました。

最初に「フォワーダ」という、伐採した木材を積載運搬する作業車両で、狭い列間の林帯に入り、木を挟んでチェーンソーで切り倒して、枝を払い、一定の長さに切り、積み上げる作業を行っていました。1本の木材を5分足らずで処理していました。

この機械は、調査の前日に森林組合に届き、当日に短時間運転の練習をし、我々

に実演してくれました。車の運転が出来れば操縦は難くないと話していました。

次に「小型ハーベスタ」で、北欧製の180馬力ほどのトラクターに取り付けられ、木を伐り、一定の長さに切断できます。運転者は、就労3年目の若い職員でしたが、巧みに運転をしていました。

最後に「移動式チップパー」で、枝や規格外の木をチップ状に粉碎する機械でした。

「このような機械を導入することで、厳しい労働環境を改善し、若い人や女性も仕事に従事しやすい状況を整えていきたい」と組合長は話していました。

当町の民有林は約2万6700ヘクタールで、カラマツ系の人工林が65%を占めています。木材は、「チップ原木」を含め、町外に出荷されています。

一方、酪農家から要望の強い「敷き料としてのオガ粉」の生産のため、「オガ粉加工施設」を平成2年に町や関係機関の支援を受け完成しました。



機械を巧みに操作する若い従業員

さらに、平成16年から適用された「家畜排泄物管理の適正化に関する法律」を受け「オガ粉」の安定供給と質の向上を図るため平成26年にオガ粉製造機の導入にいたしました。

このように、機械化のいっそうの推進により労働条件の改善と賃金や保険保障制度などの待遇改善により担い手不足の改善に取り組んでいました。

根室地方森林・ 林産業活性化推進 議員連盟協議会研修会

(10月30日 中標津町)

最初に、熟練の大工であり、木育マスターでもある柴田智幸さんから講演をいただきました。

「建築現場の廃材を何かに利用できないか」をモットーに、廃材の再利用をした木製おもちゃ作りへの熱い思いが語られました。

木育マスターとして、大人や子ども向けの木製品作りの活動を通して「自分で



木材の柔和な雰囲気の中標津児童センター「みらいくる」

作る楽しさを体験してもらい、木への関心や愛着を育んでほしい」との話がありました。

会場には、マグカップ・原木カスターネット・一枚歯の下駄などの展示がありました。参加者は、手に取り「木のやさしと滑らかさ」を体感しました。

つぎに、地元のカラマツ材を多く使用し建てられた中標津児童センター「みらいくる」の視察でした。

この施設は利用する中高校生の意見を多く取り入れ「ありのままの自分でいられる場所」をコンセプトに建設されました。完成までの経緯などを子育て支援室の高松恵理子室長よりうかがいました。

今後、管内の豊かな森林資源を有効的にさらに町づくりに生かしていくことが重要だと考えています。

平成29年根室北部消防 事務組合議会 12月定例会報告

(12月8日 中標津町)

平成27年3月、別海消防署尾岱沼新庁舎が完成後、消防力充実強化を図る目的で、別海消防署に職員3名の増員を行いました。



早急な体制の強化が求められる尾岱沼分遣所

しかし、近年上陸する台風の増加や、頻発する低気圧の発達による異常気象などによって、波浪や高潮の警報が数多く発令され、沿岸部に対する警戒出動などが増えている傾向にあります。

さらなる消防力強化が必要であり、尾岱沼分遣所の常時勤務者3名体制を目指し、今後計画的に職員を増員し、消防体制の強化を図っていきます。

このため、根室北部消防事務組合職員定数条例による別海消防署の職員定数を49名から55名に改めます。

世代をつなぎ別海の海に生きる



キシッ、ココッ、ピッ！

陽が昇る直前の湖面は氷点下20度を下回り、氷たちがそこかしこで鳴き出していた。

年明け早々から始まる風運湖の氷下待ち網漁は、ワカサギやコマイ、ニシンなどを狙う、厳冬の環境を活かした漁法で、1920年頃からはじまったといわれている。

馬そりが軽トラになり、まさかりがチェーンソーに替わっても、その自然の厳しさに寄り添いながら行われる漁のスタイルは変わらない。

寒さを活かすのは漁だけにとどまらない。秋の味覚である西別鮭、これを熟練の職人が手塩にかけ山漬けにしたものが、江戸時代には將軍徳川家に献上されていた。

この献上鮭を作るのに欠かせないのが、冬の冷たく乾いた風を使った寒干しという工程である。

環境に抗うのではなく自然な形で活用していく。非常に厳しい自然と向かい合ってきたからこそ、この考えが漁師の根底に流れているように感じる。

今、漁業は獲る時代から育む時代へと変化が求められている。激しい潮の流れと極寒の海を最大限に活かし、稚魚を放流し極上の恵みを収獲するホタテ漁。

厳しいだけでなく急激な変動も感じさせる自然と、いかにして共生し持続可能な漁業を営むか、世代を超えて常により良い答えを模索しながら歩んでいる一つの在り方ではないだろうか。

取材を進めるなか、一隻のホタテ漁船が進水の日を迎えた。この日、初めて入港する第七十八進洋丸乗組員の誇らしげな表情と、それを迎える地域の人たちのはじける笑顔がなよりの「まちの宝物」ではないだろうか。

（取材・文責 小椋哲也 委員）

編集後記

新年明けまして おめでとございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

年明け早々に、厳しい寒さを吹き飛ばすうれしいニュースが飛び込んできました。

別海町出身、郷里里砂選手の、冬季オリンピック大会出場です。我が町にとっては、楠瀬志保さん以来の快挙です。

町長を会長に後援会も整い、町上りでの応援になります。今日まで、夢に向かい黙々と取り組んできた郷選手に大きな拍手と声援を送り、オリンピックでの活躍を大いに期待しています。

町内でも、各地域で厳しい寒さの中、冬のイベントが行われています。2月は「如月」と言われます、もう一枚重ね着をして、冬の寒さを楽しみましょう。

（西委員長）

うがい、手洗い、しっかり食べて、みんなで防ごうインフルエンザ